

備後國府跡

—推定地にかかる第9次調査概報—

1991

例　　言

- 1 本概報は、平成2(1990)年11月5日から12月18日にかけて府中市高木町・府川町・目崎町で実施した備後国府跡推定地の第9次発掘調査概報である。
- 2 発掘調査は、広島県教育委員会の委託を受け財団法人広島県埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は、唐口勉三・尾崎光伸・恵谷泰典が行い、遺物の整理等は唐口が中心に行つた。また、本概報の執筆は、I・III・IV(遺物を除く)を唐口が、IIを桑原隆博が、IV(遺物)を稻垣寿彦・恵谷が分担して行い、唐口が編集した。
- 4 調査区(トレンチ、略=T)には3桁の一連番号を付し、上1桁の数字は調査次数を表す。
- 5 土器の断面は、弥生土器・土師質土器：白ヌキ、須恵器・陶器：黒ヌリ、磁器：アミ目とした。
- 6 本概報の地形図のうち、第1図は建設省国土地理院発行の1:50,000(府中・井原)、第2・7・14図及び付図は府中市都市計画図の一部を各々使用した。
- 7 本概報に使用した遺構実測図の方位は磁北である。

目　　次

I	はじめに	(1)
II	位置と環境	(2)
III	調査の概要	(4)
1	既往の調査	(4)
2	本年度の調査	(5)
IV	遺構と遺物	(6)
1	高木町地区	(6)
2	府川町地区	(10)
3	目崎町地区	(18)
V	まとめ	(19)

図版目次

図版1	a 調査区近景 高木町地区（東から）	図版6	a 910 a T P 2 遺物出土状況（東から）
	b 901 T 東壁土層断面（南西から）		b 910 a T SK901土層断面（北から）
	c 902 a T 東壁土層断面（南西から）		c 910 a T SD902検出状況（東から）
図版2	a 902 b T 北壁土層断面（南東から）	図版7	a 910 b T 調査状況（南から）
	b 903 T 東壁土層断面（南西から）		b 910 b T 第3層遺物出土状況（東から）
	c 904 T 東壁土層断面（南西から）		c 911 T 東壁土層断面（南西から）
図版3	a 905 T 東壁土層断面（南西から）	図版8	a 調査区近景 目崎町地区（西から）
	b 906 T 東壁土層断面（南西から）		b 912 T 西壁土層断面（東から）
	c 907 T 東壁土層断面（南西から）		c 作業風景
図版4	a 調査区近景 府川町地区（北西から）	図版9	出土遺物(1)
	b 908 T 東壁土層断面（北西から）	図版10	出土遺物(2)
	c 909 T 東壁土層断面（南西から）		
図版5	a 910 a T 調査状況（南から）		
	b 910 a T P 1 検出状況（北から）		
	c 910 a T P 1 遺物出土状況（西から）		

挿図目次

第1図	周辺主要遺跡等分布図 (1 : 50,000)	(2)
第2図	901～907T位置図 (1 : 3,000)	折込
第3図	901～905T土層実測図 (1 : 80)	(7)
第4図	906・907T土層実測図 (1 : 80)	(8)
第5図	902 b T 出土遺物実測図 (1 : 3)	(9)
第6図	908・909T土層実測図 (1 : 80)	(10)
第7図	908～911T位置図 (1 : 3,000)	(11)
第8図	910 a・b T 遺構実測図及び911T土層実測図 (1 : 80)	折込
第9図	910 a T P 1・2 遺物出土状況実測図 (1 : 10)	(13)
第10図	910 a T 出土遺物実測図(1) (1 : 3)	(15)
第11図	910 a T 出土遺物実測図(2) (1 : 3)	(16)
第12図	910 a T 出土遺物実測図(3) (1 : 2)	(16)
第13図	910 a・b T 出土古錢拓影 (1 : 1)	(17)
第14図	912T位置図 (1 : 3,000)	(18)
第15図	912T土層実測図 (1 : 80)	(18)

付図目次

付図 第1～9次調査区位置図 (1 : 10,000)

I はじめに

備後国府跡の探求は、備後地域の古代史の解明に欠くべからざる事項であり、古くからその所在地について多くの研究者によって研究が進められ、その一つとして府中説が唱えられてきた。これは10世紀に編集された『倭名類聚抄』の国郡部に「国府在葦田郡」との記載があることから、古代の葦田郡のなかに国府があり、現在の府中市の市街地及びその一帯であろうと推定されてきた。しかし、市街地における発掘調査は行われたことはなく国府跡との確証は得られないままであった。

一方、福山市及びその周辺地域が昭和38(1963)年に備後工業整備特別地域に指定されるなど工業の急速な発展に伴い、府中市でも平野部とその周辺の丘陵部の開発が進み、市街地が拡大している。このため、国府の存在の確認が困難になることが予想され、早急に保存対策を講ずる必要があった。そこで、広島県教育委員会は昭和57(1982)年度から年次的に発掘調査を実施することにした。昭和57年度は広島県教育委員会、昭和58(1983)～63(1988)年度は広島県立埋蔵文化財センターが調査を担当し、平成元(1989)年度以降は財団法人広島県埋蔵文化財調査センターが広島県教育委員会の委託を受けて調査を実施している。本年度は第9次発掘調査として府中市高木町・府川町・目崎町で実施した。

なお、調査に当たっては、府中市・府中市教育委員会・広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県立歴史博物館から多大の協力を受け、特に篠原正治(府中市教育委員会)・高橋孝二(府中市史編纂室)の両氏には調査全般にわたってお世話になった。また、発掘調査地の土地所有者及び使用者である有地亨三・横山鈴子・坂井憲・的場明・的場重忠・川原三郎・中田光義・田辺庄三・池田豊子・松浦道博・横高平八・林茂樹の各氏並びに調査に参加された地元の方々から多大の協力を受けた。記して関係者に深く感謝します。

II 位置と環境

府中市は、広島県東南部のやや内陸に位置する工業都市である。現在、「機械」等の製造が基幹産業であるが、地場産業として，“府中たんす”として有名な「木工業」、「縫製業」や“府中みそ”的「醸造業」などの産業が盛んである。



第1図 周辺主要遺跡等分布図（1：50,000 府中・井原の一部）

- | | | | |
|----------|-----------------|---------|--------|
| 1 常城跡推定地 | 2 ハッ尾城跡 | 3 伝吉寺跡 | 4 前原遺跡 |
| 5 栗柄庵寺跡 | 6 甘南備 (賀武奈備) 神社 | | |
| 7 総社 | 8 南宮神社 | 9 吉備津神社 | |

吉備高原面に当たる標高400～700mの小規模連山によって市街地の三方を囲まれ、市域の大半は神辺平野西域にあたる。また、世羅台地に源を発する芦田川が市域の西北から南東に向けて貫流しており、現在では市街地の南端を流れているが、かつては氾濫を繰り返したことが知られている。市街地の標高は20～40m、現芦田川河口から約22kmである。

市街地には条里の名残りとも考えられている磁北から東に約30°偏した地割が見られるが、元町には地割が東西南北の正方位をとる一角が存在し、この区画は国府の中心部である可能性が高いと推定されている。⁽¹⁾

次に周辺の古代の関連遺跡を概観する。寺院跡として元町に伝吉田寺跡、栗柄町に栗柄廃寺跡が確認されている。伝吉田寺跡では、川原寺創建時のものや藤原宮式軒丸瓦に酷似する軒丸瓦が出土し、西に金堂、北に講堂を配した伽藍配置が想定されている。⁽²⁾芦田川の南に位置する栗柄廃寺跡では、伝吉田寺跡と共通する軒丸瓦・軒平瓦が出土しているが、伽藍配置は不明である。芦田川を少し遡った父石町は、芦田川本流に御調川が合流するところであるが、ここには伝吉田寺跡と共通する奈良時代後半の軒丸瓦・軒平瓦・土馬等の遺物が出土した前原遺跡が存在し、軍團跡または駅家跡と考えられている。市街地北方の亀ヶ岳は「統日本紀」に記載のある朝鮮式山城の常城跡と推定されている。⁽³⁾また、この南側には建仁年間(1201～1203)に備後國守杉原光平によって築かれたハツ尾城が存在する。

一方、元町の現小野神社境内には總社、出口町には「延喜式」神名帳に記載のある「賀武奈備神社」に比定される甘南備神社、栗柄町には南宮神社、隣りの新市町には「備後一の宮」の吉備津神社がある。

(註)

- (1) 広島県立埋蔵文化財センター編『備後国府跡－推定地にかかる第5次調査概報－』昭和62(1987)年
片山和哉「備後国府跡の所在について－備後国府跡発掘調査5年間の成果と意義」『芸備』第18集
昭和62(1987)年
- (2) 広島県教育委員会『伝吉田寺跡発掘調査概報』昭和43(1968)年
- (3) 常城跡の推定範囲については、豊元国氏と脇坂光彦氏とで異なる。第1図では脇坂氏の推定範囲によった。

III 調査の概要

1 既往の調査（付図）

年次調査以前の市街地における調査としては、昭和55(1980)年10月に府中町の府中市文化センター建設予定地の試掘調査で中世の遺物、昭和57(1982)年6月に鶴飼町の広谷小学校プール建設予定地の試掘調査で弥生土器が各々出土したものの、国府に関係する遺構・遺物は確認されていない。昭和57年度から国府の確認のための年次調査が始まった。

第1次調査（昭和57年度） 鶴飼町へ広谷町で奈良～平安時代の遺物包含層を確認したが、遺構は確認できなかった。

第2次調査（昭和58年度） 鶴飼町で弥生～鎌倉時代の遺構・遺物を確認した。特に鶴飼町寺ノ前地区では奈良～平安時代の掘立柱建物跡を確認し、柱穴から陶碗が出土した。

第3次調査（昭和59年度） 元町マエ地区で弥生～古墳時代の遺構・遺物、元町明ゼン・ツジ地区で奈良～平安時代の遺構、綠釉陶器等の遺物を確認した。

第4次調査（昭和60年度） 元町ワキ地区で奈良～平安時代の柱穴・溝、元町砂山地区で奈良～平安時代の柱穴、平安時代の井戸、木簡・青磁・白磁等の遺物を確認した。

第5次調査（昭和61年度） 元町片岡地区で繩文時代～中世の遺構・遺物、元町新角メン地区で奈良～平安時代の包含層、元町ホリノ河内地区では中世の包含層を確認した。

第6次調査（昭和62年度） 元町砂山地区で平安時代～中世の掘立柱建物跡・土器溜まり・瓦溜まり・井戸・溝等の遺構・遺物、また、その下層で弥生～古墳時代の包含層・溝等、元町松原地区で奈良～平安時代の柱穴・土壤・溝等の遺構・遺物を確認した。

第7次調査（昭和63年度） 出口町辻横田地区で古墳時代～中世の柱穴・土壤等の遺構・遺物、出口町辻砂場地区で奈良～平安時代の包含層を確認した。

第8次調査（平成元年度） 出口町辻羽中地区で平安時代の柱穴・溝等の遺構、白磁・陶碗・銅鏡・墨書き土器等の遺物を確認した。

なお第4・6次調査を行った元町砂山地区では、府中市埋蔵文化財調査団が都市計画街路建設に伴い昭和63年10～12月に発掘調査を実施し、奈良～平安時代の倉庫跡と考えられる掘立柱建物跡・柱穴・井戸・溝等の遺構を確認している。また、出口町辻羽中地区では昭和63年7月、工事中に7～8世紀の須恵器（杯・壺）・土師器が多量に出土し、府中市教育委員会によって緊急調査されている。さらに府中町では平成2年9月、府中市教育委員会によって図書館建設に伴う試掘調査が行われたが、遺構は検出されず、遺物は須恵器・土師器の細片が数点出土したのみである。

2 本年度の調査（第2・7・14図）

本年度の調査は、国府推定域の南限及び西限を確認することを目的とした。トレンチは市街地南側の高木町（7か所）・府川町（4か所）、市街地西側の目崎町（1か所）で合計12か所設定した。トレンチの規模は912Tを除き長さ10～13m、幅3mである。

高木町地区（第2図）の901～907Tでは遺構はまったく確認されなかった。ほとんどのトレンチは地表面から比較的浅いレベルの粘土層または砂礫層からの滴水がみられた。ただ、902a Tの礫層の上面で奈良～平安時代の須恵器片が多く出土しており、近辺に当時の何らかの遺構が存在する可能性がある。また、902b Tでは弥生土器の包含層を確認した。

府川町地区（第7図）の908～911Tのうち910a・b Tで、ピット群・土壙群・溝状遺構を検出した。このうち910a TのP2で土師質土器（皿）・古錢がまとまって出土し、910a TのP1と第3層で各々1枚の土師質土器（皿）が古錢を1枚ずつ入れた状態で出土するなど祭的な様相を示す遺構を確認した。また、SD902とSD903はほぼ直交するように伸び、SD902は石列を伴っていることなどから、当時の地割りに沿うものである可能性がある。遺物は910a・b Tとも土師質土器・陶器などが出土した。これらの遺物から遺構の時期は室町時代後半頃と考えられる。一方、908・909・911Tではいずれも耕作土の下がすぐ砂層ないし砂礫層となっており、遺構・遺物はほとんど検出されなかった。

目崎町地区（第14図）の912Tは3×3mのトレンチで、ここも旧耕作土の下は砂層・砂礫層となっており、遺構・遺物は確認されなかった。

なお、元町ツジ地区では、平成2年12月～平成3年2月にかけて府中市教育委員会が確認調査を実施し、奈良～平安時代の掘立柱建物跡・柵・溝状遺構などを検出し、須恵器・土師器が多数出土している。

参考文献

- 広島県教育委員会「備後國府跡－推定地にかかる第1次調査概報－」昭和58（1983）年
広島県立埋蔵文化財センター編「備後國府跡－推定にかかる第2～7次調査概報－」昭和59～平成元（1984～1989）年
財團法人広島県埋蔵文化財調査センター編「備後國府跡－推定地にかかる第8次調査概報－」平成2（1990）年
府中市埋蔵文化財調査団「備後國府跡－都市計画街路建設にともなう発掘調査概報－」平成元（1989）年

IV 遺構と遺物

1 高木町地区（第2図）

(1) 遺構

901 T（高木町本堀田）（第3図）

J R高木駅の南西側約30mの水田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層），灰褐色～茶褐色粘質土（第2・3層），灰色系砂質土～砂層（第4・5層）となる。第2・3層の間の所々にレンズ状の砂層がある。湧水は第4層からみられる。遺構は確認されず，遺物は第4層から磨滅の著しい土師質土器の小片が2点出土した。

902 a T（高木町沖）（第3図）

高木駅の西側約200mの水田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層），黄褐色～灰色粘質土（第2・3層），礫層（第4層），暗灰色粘質土（第5層）となり，第5層より下は黒色砂質土である。礫層は第5層上面に薄く全面に広がっている。湧水は第5層からみられる。遺構は確認されないが，須恵器・土師器片が礫層上面にはりつくようにして比較的多く出土しており，近辺に当時の遺構が存在する可能性がある。

902 b T（高木町沖）（第3図）

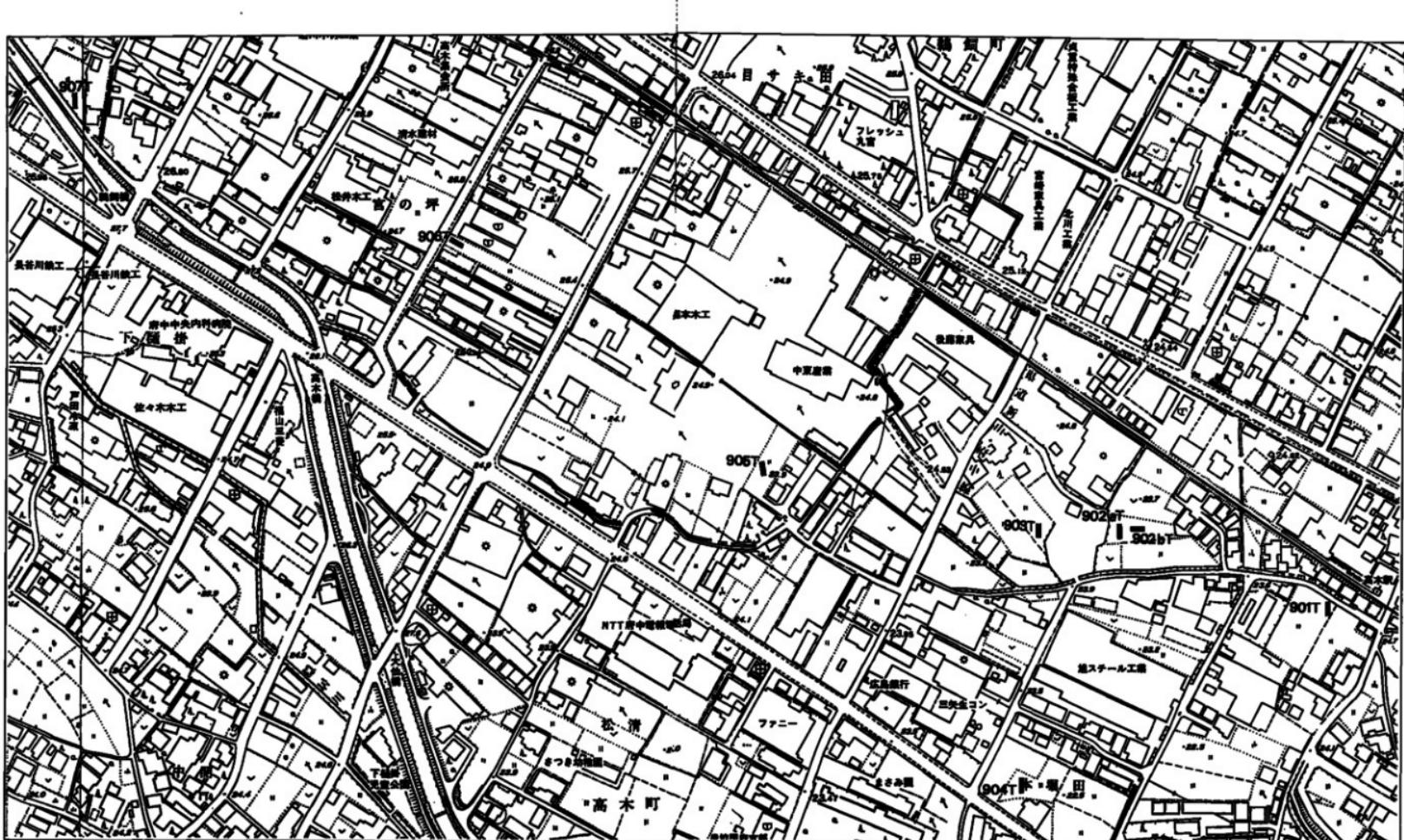
902 a Tと同じ水田で902 a Tの東側約10mに東西方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層），灰褐色～灰色粘質土（第2・3層），暗灰色粘質土（第4層），灰色粘質土（第5層）となる。902 a Tでみられた礫層はここでは検出されず，湧水は地表下約70cmでわずかにみられるなど，902 a Tとはまったく異なる状況である。遺構は確認されず，遺物は第2・3層から土師質土器（皿）・須恵器（甕・杯身）・土師器，第4層からは弥生土器が比較的多く出土した。

903 T（高木町沖）（第3図）

902 a Tの西側約50mの水田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層）；暗灰色～灰色砂質土（第2・3層），灰色砂礫層（第4層），黑褐色砂礫層（第5層）となる。第5層は固くしまり，その上面は南側に向かって下に傾斜している。湧水はなく，今回調査した高木町地区内で唯一水はけの良い地点である。遺構は確認されず，遺物は主に第2・3層から須恵器（甕・杯蓋・杯身）・土師器（甕）の小片が若干出土した。

904 T（高木町本堀田）（第3図）

903 Tの南側約200mの休耕田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層），暗灰色～黄灰色粘質土（第2～4層），黄褐色砂礫層（第5層），暗灰色砂層（第



第2図 901~907T位置図 (1:3,000)

901 T (東壁)



- 1 耕作土
2 灰褐色粘質土（床土）
3 茶褐色粘質土
- 4 暗灰色砂質土
5 灰色砂層（砂粒相い）

かく乱 2

902 a T (東壁)



- 1 耕作土
2 黄褐色粘質土（床土）
3 灰色粘質土
- 4 暗灰色砂層
5 灰色粘質土

902 b T (北壁)



- 1 耕作土
2 灰褐色粘質土（床土）
2' " (砂粒多合)
- 3 灰色粘質土
4 暗灰色粘質土
5 灰色粘質土

903 T (東壁)



- 1 耕作土
2 暗灰色砂質土（床土）
3 灰色砂質土
- 4 灰色砂質層（拳大の砂粒多合）
5 黑褐色砂質層（固くしまる）

904 T (東壁)



- 1 耕作土
2 暗灰褐色粘質土（床土、砂粒多合）
3 黄褐色粘質土
- 4 黄灰褐色粘質土
5 黄褐色砂質層（拳大の円礫多合）
5' 黄褐色砂質層（" ）
6 暗灰色砂層（砂粒きめ細かい）

905 T (東壁)



第3図 901～905 T 土層実測図(1:80)

6層)となる。第5層は円礫が約40cm堆積し、湧水がみられる。遺構は確認されず、遺物は第2~4層から青磁(碗)・磨滅の著しい須恵器の小片が数点出土した。

905T(高木町)(第3図)

903Tから西側約200mの水田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土(第1層)、黄褐色~暗灰褐色粘質土(第2・3層)、灰色粘質土(第4層)、暗灰色砂層(第5層)となる。第3層のなかにレンズ状の砂層が所々でみられる。また、第4層は円礫を多く含み、湧水がみられる。遺構は確認されず、遺物は第2~3層から磨滅の著しい土師質土器(すり鉢)・須恵器の小片が数点出土した。

906T(高木町宮ヶ坪)(第4図)

鶴飼駅の南南東約300mの水田に東西方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土(第1層)、暗灰色~灰色粘質土(第2・4層)、暗灰色~黒色粘質土(第5・6層)となる。第2・4層の間に所々にレンズ状の砂層(第3層)がある。湧水は第5層からみられる。遺構は確認されず、遺物は第2層から磨滅の著しい土師質土器(すり鉢)の小片が1点出土した。

907T(高木町杭ヶ坪)(第4図)

鶴飼駅の南西約250mの砂川のすぐ北側の畑(かつては水田)に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土(第1層)、灰褐色粘質土(第2層)、灰色粘質土(第4層)となる。第2・4層の間に砂層(第3層)がある。また、第4層は近世頃の水田跡の一部と思われる畦状の盛り上がりである。湧水は第4層からみられる。遺構は確認されず、遺物は第1層から須恵器・土師器の小片2点、第2層から磨滅の著しい弥生土器(甕)の小

906T(北壁)



907T(東壁)



第4図 906・907T土層実測図(1:80)

片が1点出土した。

(2) 遺物 (第5図)

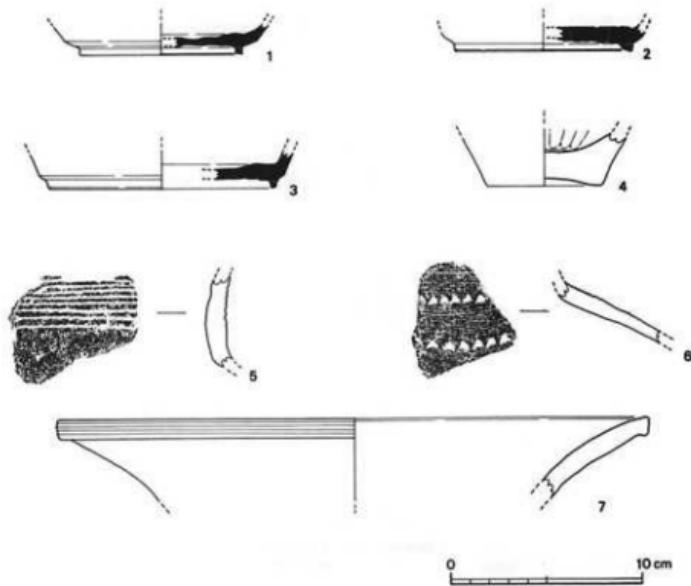
902 b T

須恵器 (1~3) 第3層から出土した。いずれも杯身で、高台をもつものである。

1は胎土が精緻で丁寧なヘラ削りを施している。2は胎土が粗くヘラ削りも雑である。3は底部から体部への境界に明瞭な稜を残している。底部にはヘラ削りを施し、高台は貼り付けで、断面は1・2が逆台形、3は三日月形高台に近いものである。

弥生土器 (4~7) 第4層から出土した。

4は底部のみで摩滅が著しいが内面に指頭調整が見られる。5は頸部で8条のヘラ描き沈線を施している。6は肩部の破片で山形の刺突文を連続して2条施しその間に櫛描きを施している。7は大型壺の口縁部で口縁端部に2条の沈線がわずかに残るが摩滅が著しく他の紋様や調整は確認できない。いずれも弥生時代中期頃のものと考えられる。



第5図 902 b T出土遺物実測図 (1:3)

2 府川町地区（第7図）

(1) 遺構

908T（府川町大田）（第6図）

府川天満宮西側の休耕田に南北方向のトレンチを設定した。土層堆積状況は耕作土（第1層），暗灰色砂質土（第2層），灰色系砂層（第4～8層），灰色系砂質土（第10・13層）となる。湧水は第13層でみられる。第9・11・12層は水田跡の一部と思われる畦状の盛り上がりで，その上に砂層が約40cm堆積している。遺構は確認されず，遺物は砂層から近世陶磁器・瓦類のほか，磨滅の著しい土師質土器（すり鉢）・陶器（甕）・須恵器の小片が数点出土した。

909T（府川町藤木）（第6図）

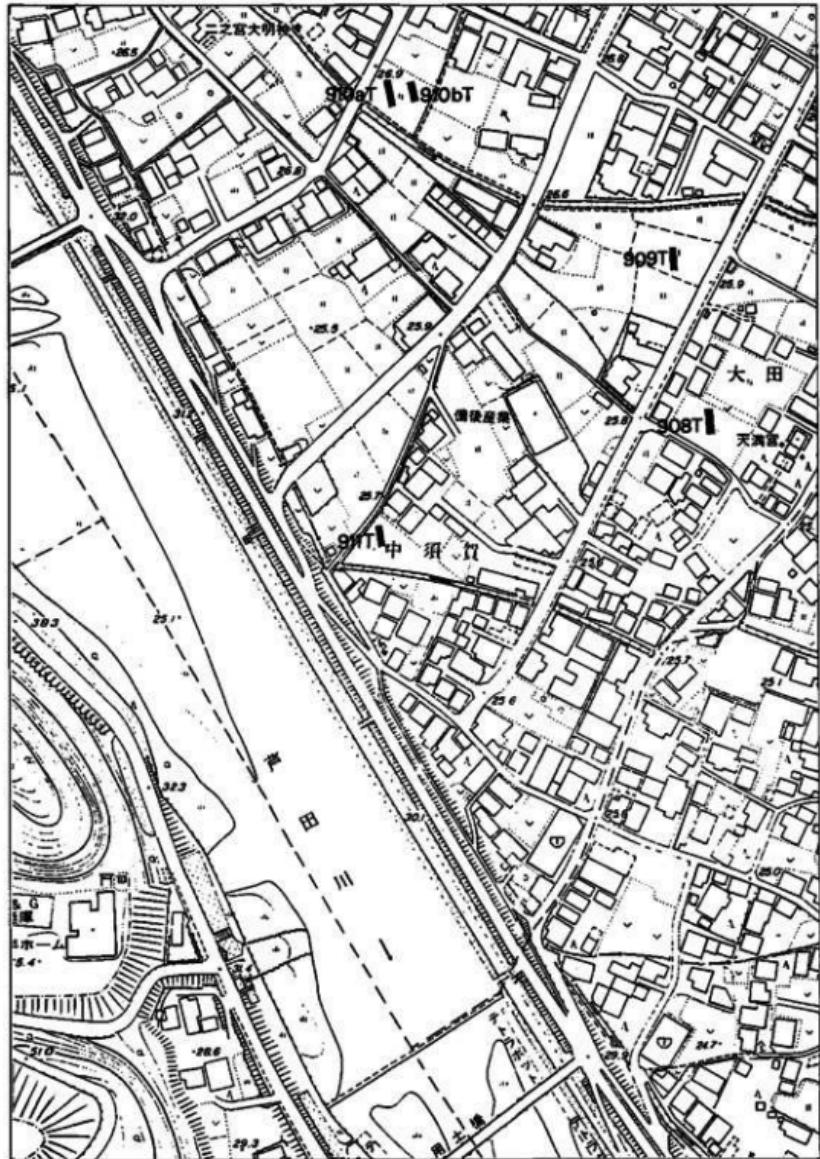
908Tの北側約180mの休耕田に南北方向のトレンチを設定した。土層堆積状況は耕作土（第1層），暗灰色～白色砂質土（第2・3層），暗灰色粘質土（第4層），青灰色粘質土（第5・6層），褐色砂礫～砂層（第7・8層）となる。湧水は第8層でみられる。第4層上面に畑の面と思われる畝状の起伏が認められる。第5層上面のトレンチ北端で東西方向にのびる幅約20cmの溝状造構を2条検出した。その他の遺構は確認されず，遺物は第6層以上で近世陶磁器のほか，磨滅の著しい土師質土器・須恵器（椀）の小片が数点出土した。

910aT（府川町溝手）（第8図）

府中市役所の南側約50mで二之宮神社の東隣の水田に南北方向のトレンチを設定した。土層堆積状況は耕作土（第1層），灰茶褐色粘質土（第2層），茶褐色砂質土（第3層），黄褐色砂質土（第4層）であり，トレンチ南側では暗褐色粘質土（第5層）となっている。第908T（東壁）



第6図 908T・909T土層実測図 (1:80)



第7図 908~911T位置図 (1 : 3,000)

4・5層より下は砂礫層である。第3層は拳大の円礫を多く含む。第4・5層の上面で遺構を検出した。遺構はピット（P 1・2ほか）、土壙（SK901）・溝状遺構（SD902・903）を検出した。ピットの対応関係は不明である。遺物は第3層から土師質土器（皿・土鍋・すり鉢）・陶器（甕・すり鉢）・青磁（碗）・鉄器（釘・板状鉄器）・古銭・土錐のほか、須恵器（碗）の小片が数点出土した。

P 1（第9図） 長径102cm、短径76cmの南北に長い不整梢円形のピットである。底面は深さ18cmと浅く、二段に掘り下げている。埋土は暗灰褐色粘質土である。遺物はピットの北寄りで土師質土器（皿）が古銭（景德元寶）を1枚入れた状態で出土した。

P 2（第9図） 直径45cmの不整円形のピットで、南東寄りに直径20cm・深さ15cmの小穴がある。埋土は小穴で灰茶褐色砂質土、上段で暗灰褐色粘質土である。遺物は小穴を塞ぐような状態で土師質土器（皿）16点・古銭（永楽通寶等）5点・鉄鎌1点が出土した。皿の向きは一定せず、数枚ずつ重なっている。古銭は皿の上や間から出土した。

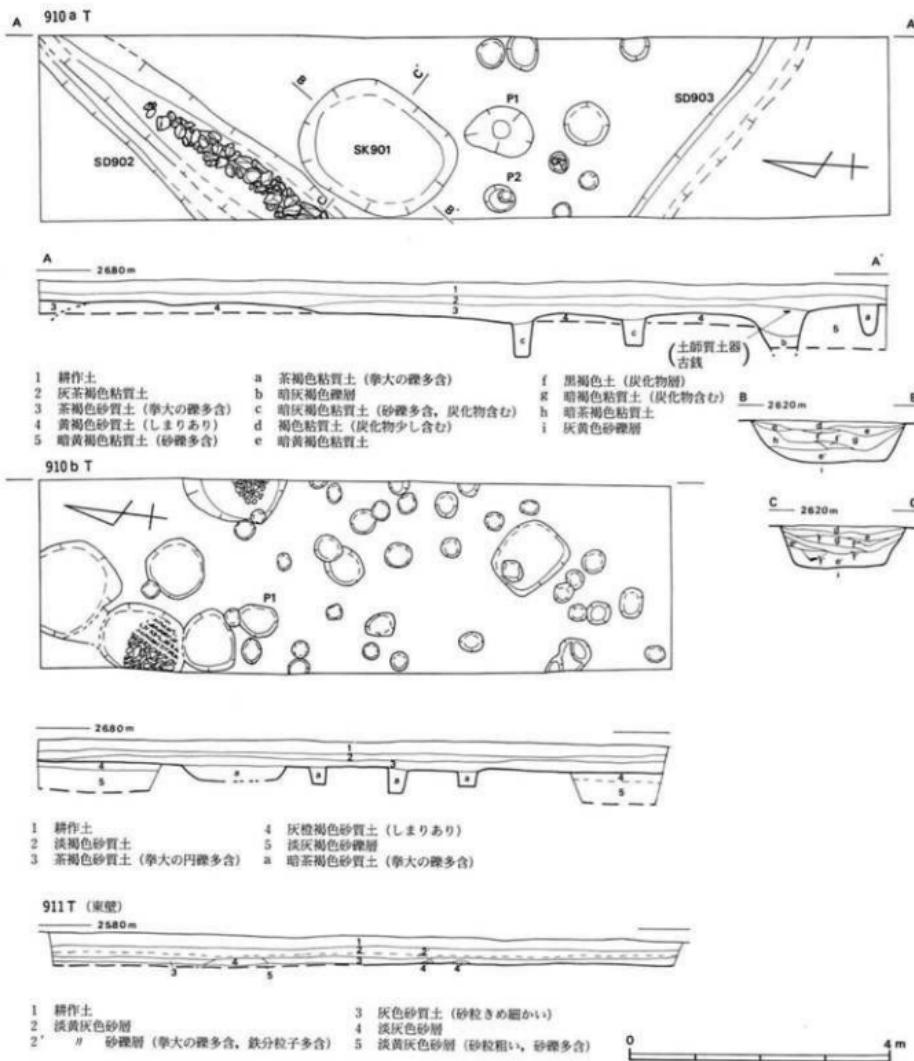
SK901（第8図） 長径約230cm、短径約190cmの南北に長い不整梢円形で深さ65cmの土壙である。埋土は粘質土の間に3層の炭化物層がみられる。遺物は土師質土器（皿・土鍋・すり鉢）の小片が出土した。なお、SD902がSK901を切っており、SK901が埋まつたあとSD902が掘られていることを確認した。

SD902・903（第8図） SD902は北東-南西方向に延びる幅約150cmの溝状遺構である。深さは約10cmと浅く、壁は緩やかに立ち上がり、北西側は二段になっている。埋土は暗灰褐色粘質土である。底から浮いた状態で直径30cmぐらいまでの円礫を使った石列が南側に延びている。北側が途切れていますが、元来は北側にも延びていたものが開墾か耕作の際に除去されたと考えられる。遺物は土師質土器（皿）・陶器（甕）が若干出土した。SD903は最大幅約60cm・深さ約60cmの溝状遺構で、SD902と直交するように南東-北西方向に延びる。埋土は下層は暗灰褐色礫層、上層は茶褐色粘質土である。遺物は上層から土師質土器（皿）・陶器（甕）が出土した。

なお、トレンチ南側の東壁際と西壁寄りの2か所（いずれも第3層中）で各々1枚の土師質土器（皿）が古銭（いずれも永楽通寶）を1枚ずつ入れた状態で出土した。

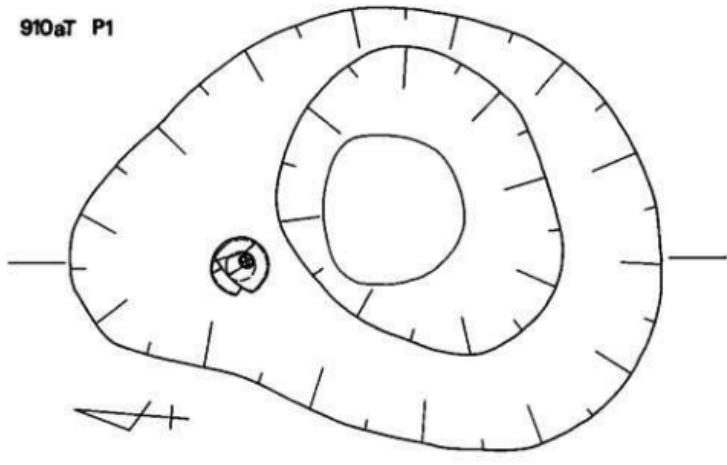
910 b T（府川町溝手）（第8図）

910 a Tの東側約10m離れた同じ水田に南北方向のトレンチを設定した。土層堆積状況は耕作土（第1層）、淡褐色砂質土（第2層）、茶褐色砂質土（第3層）、灰橙褐色砂質土（第4層）、淡灰褐色砂礫層（第5層）となる。第4層上面が遺構検出面で、第3層は拳大の円礫を多く含み、910 a Tと同様の土層である。遺構はピット群・土壤群を検出した。ピットの対応関

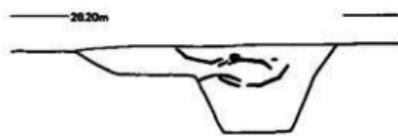
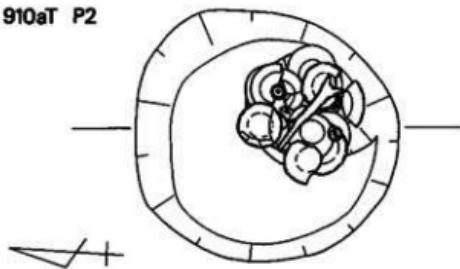


第8図 910 a・b T 道構実測図及び911 T 土層実測図 (1 : 80)

910aT P1



910aT P2



第9図 910aT P1・2 遺物出土状況実測図 (1:10)

係は不明である。ピットの規模は直径30~60cmで、30cm前後のものが多い。土壤の規模は長径90cmから大きいものでは160cm以上である。ピット群と土壤群の新旧関係は切り合いからピット群の方が概ね新しい。遺物は第3層から土師質土器（皿・土鍋・すり鉢）・陶器（壺・すり鉢）・白磁・古錢のほか、須恵器（椀）の小片が数点出土した。

911T（府川町中須賀）（第8図）

910a・b Tから約220m南側の休耕田に南北方向のトレンチを設定した。土層の堆積状況は耕作土（第1層）、淡黄灰色砂層（第2層）、灰色砂質土（第3層）、淡黄灰色砂層（第5層）となる。第4層は近世以降の水田跡の一部と思われる畦状の盛り上がりである。澗水は第5層でみられる。遺構は確認されず、遺物は第2・3層から近世陶磁器のほか、磨滅の著しい土師質土器・陶器（壺）の小片が数点出土した。

（2）遺物（第10~13図）

910a T

土師質土器（8~40） 8はSK901、9~24はP2、25はP1、26~28はSD903、29~40は第3層から出土した。8~40はすべて皿である。分類基準は以下の通りである⁽¹⁾。

A類（口径8~10cm）	1 底部ヘラ切り	2 底部糸切り
	B類（口径5~7cm）	

A-1類-全く出土しない。

A-2類-8~25、27、28、30、33~40

このうち、9~23は静止糸切り、それ以外は回転糸切りである。

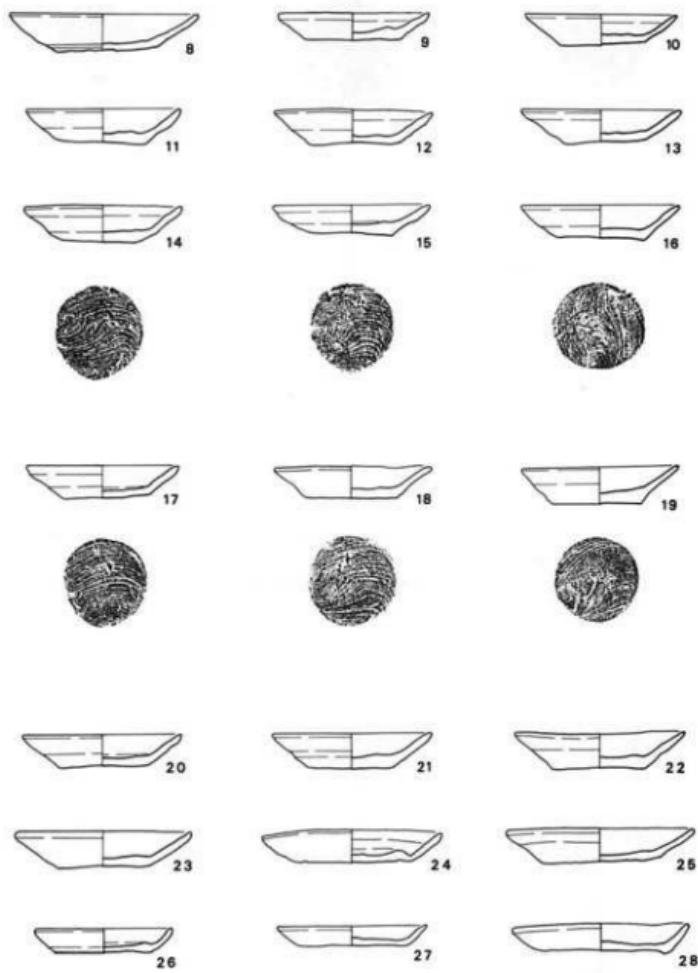
B類-26、29、31、32

すべて回転糸切りで、外底面に板圧痕が認められるものも存在する。

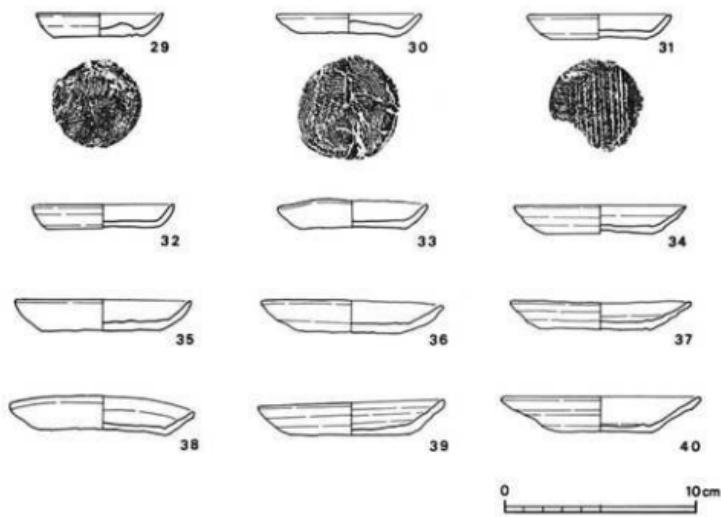
全体的に胎土は精緻、焼成は良好、色調は茶灰~橙褐色を呈する。

鉄器（41・42） 41は雁股式の鐵鎌で、P2の土師質土器（皿）の上から出土した。現存長16.0cm、鎌身部幅4.5cm、茎部幅0.4cmである。鎌身部は二股に別れ、関部が棘状を呈し、茎部は細長く断面方形である。また茎部に一部木質痕が認められる。42は第3層出土の鉄器である。全長9.7cm、最大幅6.9cm、厚さ0.4cmで、全体的に板状の不整三角形を呈するが、性格・用途等は不明である。

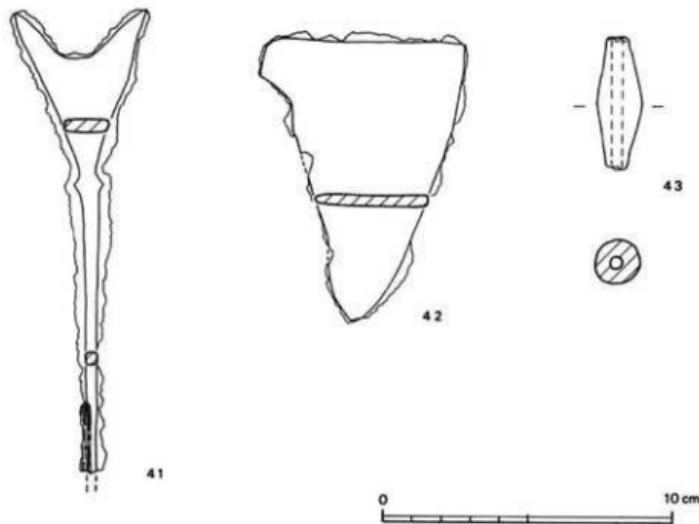
土製品（43） 第3層から出土した土錘である。全長4.6cm、最大厚1.5cm、孔径0.4cm、重量6.89gである。全体を丁寧にナデている。胎土には微砂粒を含み、焼成は良好、色調は赤橙~暗橙色を呈する。



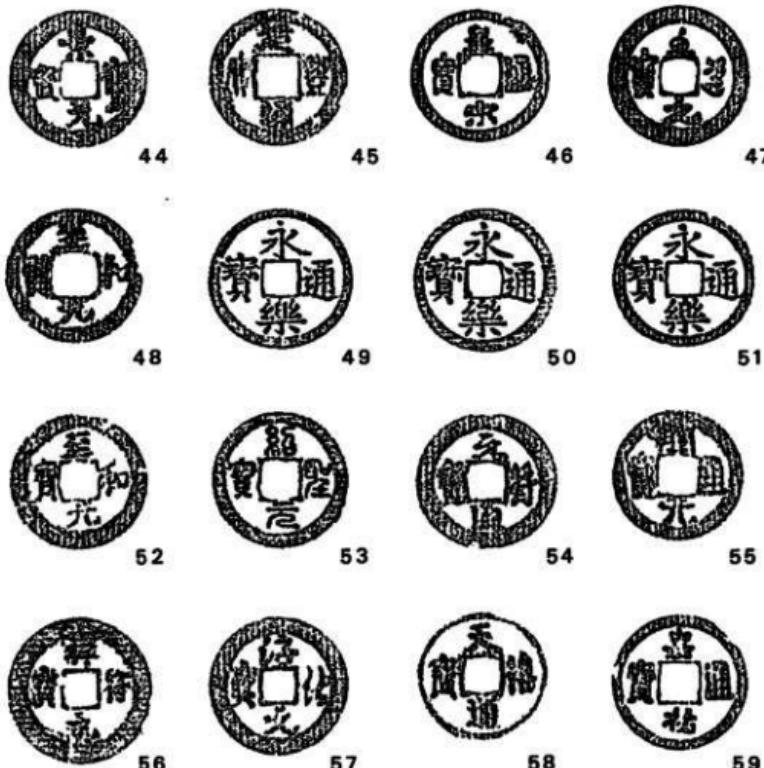
第10図 910a T出土遺物実測図(1) (1 : 3)



第11図 910 a T出土遺物実測図(2) (1 : 3)



第12図 910 a T出土遺物実測図(3) (1 : 2)



0

5 cm

第13図 910 a・b T出土古拓影 (1:1)

出土トレンチ	造構・層位	枚数	錢種(番号)
910 a T	P 1	1	景德元寶⑥
910 a T	P 2	5	元豐通寶④・皇宋通寶③・至道元寶⑦・至和元寶⑨・永樂通寶⑩
910 a T	第3層	2	永樂通寶⑩・⑪
910 b T	P 1	2	至和元寶⑩・紹聖元寶⑫
910 b T	第3層	6	元符通寶⑭・開元通寶⑮・祥符元寶⑯・淳化元寶⑭・天禧通寶⑯・嘉祐通寶⑯
計		16	

造構別出土古錢一覧表

3 目崎町地区（第14図）

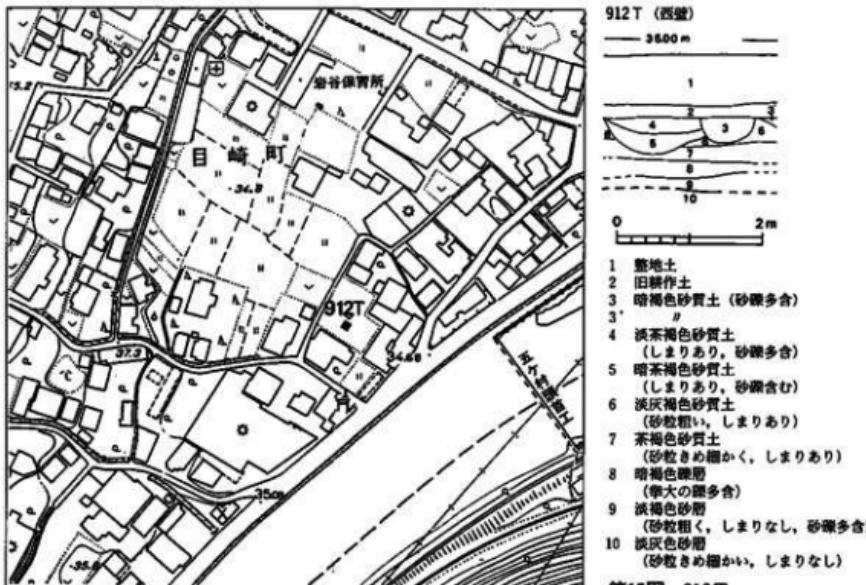
(1) 遺構

912T（目崎町加一）（第15図）

岩谷保育所から約120m南側の資材置場の一隅に 3×3 mの調査区を設定した。土層の堆積状況は整地土（第1層），旧耕作土（第2層），淡灰褐～茶褐色砂質土（第6・7層），暗褐色砂疊層（第8層），淡褐～灰色砂層（第9・10層）となる。砂疊層（第8層）は30cm近く堆積している。湧水は第10層でもみられない。遺構・遺物は確認されなかった。

なお，912Tより約50m西側のやや標高の高い水田で奈良～平安時代の須恵器の小片が数点表面採集されている。

（註）土器類の分類基準は、「備後国府跡－推定地にかかる第7次調査概報－」平成元（1989）年に依る。



第14図 912T位置図（1：3,000）

第15図 土層実測図（1：80）

V まとめ

本年度は、府中市高木町・府川町及び目崎町において調査を実施した。ここでは各地区での調査結果を概観してまとめとしたい。

1 高木町地区における調査結果

J R福塩線と県道の間の水田などに東西約1kmにわたる広い範囲に901~907Tを設定した。903T以外では地表面から約30~60cm掘り下げたところ、湧水がみられる粘土層または砂礫層を確認した。また、幾度も大水を被ったと思われるレンズ状の砂層があるなど、低湿地であったようである。遺構は確認されず、遺物も902a・bTを除いて流れ込みとみられる磨滅の著しい弥生土器・土師器・須恵器の小片が出土したのみである。

ただ、902aTの礫層上で奈良~平安時代の須恵器が多く出土した。第1次調査でも奈良~平安時代の包含層の広がりが確認されており、第1次調査区周辺から902a・bT近くまでの間に遺構が存在する可能性がある。なお、902bTの第4層から弥生土器(中期)が多く出土し、この時期の遺物包含層が周辺に広がっているようである。

2 府川町地区における調査結果

908~911Tのうち、908・909・911Tでは近世以降の水田跡と思われる畦状の盛り上がりなどを確認したほか遺構はなく、遺物も流れ込みとみられる磨滅の著しい須恵器・土師器・土師質土器の小片が出土するのみである。耕作土の下の土層が砂質土や砂の層であることから、水田を開く以前の状況は河原に近かったものと思われる。

一方、910a・bTではピット群・土壤群・溝状遺構が検出された。SD902は磁北から約35°東に偏る方向に延び、それと直交する方向にSD903が延びている。この方向は現在の水田の地割にはほぼ平行していることから、現在とあまり変わらない地割であった可能性がある。910a・bTを設定した水田の周辺の小字は「溝手」と呼ばれ、付近に「土井」・「六日市」など中世的な地名を残している。また、910a・bT周辺は他のトレンチよりその標高が0.6~1m高く大水を被ることが少ない比較的安定した地形であり、こうした場所に当時の集落が広がっていたようである。

910a・bTの第3層及び遺構から出土した土器の時期については、①土器と共に伴する古銭のうち最も新しい時期のものが永樂通寶であり、その流通が15世紀以降であること、②土師質土器の食器類のうち碗はみられず、皿のみで構成されていることなどから、おおまかに15~16世紀の室町時代後半頃と考えられる。ただ、土師質土器(皿)⁽¹⁾の形態・技法などが草戸千軒町遺跡出土土器とは異なっているようであり、厳密な時期の比定は現段階で

は難しく、今後の府中市周辺での資料の増加を待ちたい。

なお、910a Tでは古銭を伴う土師質土器(皿)の出土が4例確認された。その状況は大きく2分できる。土師質土器(皿)・古銭がまとめて出土した1例(P2)と、古銭1枚を入れた土師質土器(皿)が出土した3例(P1・第3層中)である。前者と同様の出土状況を示すものは県内では賀茂郡大和町行武城跡S X01⁽²⁾・尾道市土堂一丁目出土例がある。また、後者と同様の出土例は福山市津之郷町サコ田遺跡S K4⁽³⁾でみられる。これらの遺構の性格は地鎮など祭祀的な行為に伴うことが考えられる。行武城跡S X01例は16世紀前半、尾道市土堂一丁目出土例は室町時代半頃、サコ田遺跡S K4例は15世紀末~16世紀初めとされている。以上のように県内でのこのような遺構及び遺物の出土状況は15~16世紀頃の例が知られている。

3 目崎町地区における調査結果

912Tでも遺構・遺物は確認されず、土層観察においても旧耕作土の下は砂質土・砾・砂の層になっている。これは調査区が芦田川に近いことから、川の土砂堆積によるものと考えられる。

なお、調査区の西方で奈良~平安時代の須恵器片が表面採集されていることから、芦田川から離れたやや標高の高い山裾付近に遺構が存在する可能性があり、さらに昨年度調査した出口町に向って遺構が広がっていることは十分考えられる。

(註)

(1) 福山市草戸千軒町遺跡出土の土師質土器の編年では15~16世紀にかけて碗がみられなくなる傾向がある。

鈴木康之「土師質土器の寸法に関する研究ノートー草戸千軒町遺跡における室町時代後半の資料を中心にー」『草戸千軒』No.209 平成2(1990)年

(2) 行武城跡発掘調査団「行武城跡発掘調査報告」昭和60(1985)年

(3) 藤原芳秀「尾道市内出土の中世遺物」『草戸千軒』No.60 昭和53(1978)年

(4) 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター「サコ田遺跡」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告」(VI)広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第91集 平成3(1991)年

図版 1

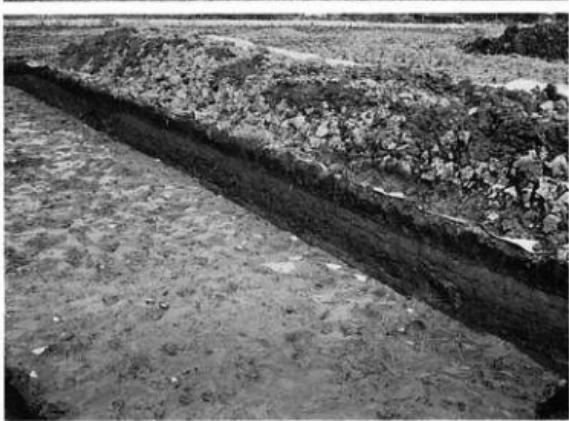
a 調査区近景
高木町地区
(東から)



b 901T
東壁土層断面
(南西から)



c 902aT
東壁土層断面
(南西から)



a 902bT

北壁土層断面

(南東から)



b 903T

東壁土層断面

(南西から)



c 904T

東壁土層断面

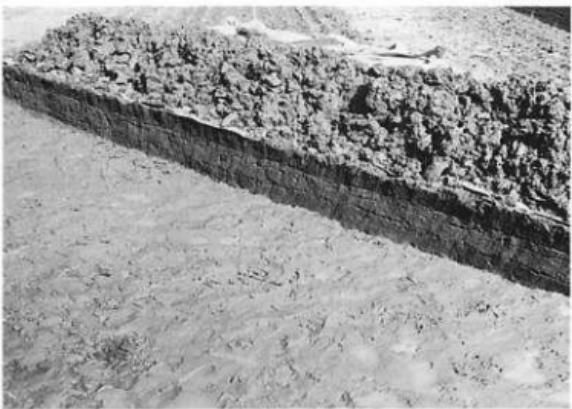
(南西から)



a 905T

東壁土層断面

(南西から)



b 906T

東壁土層断面

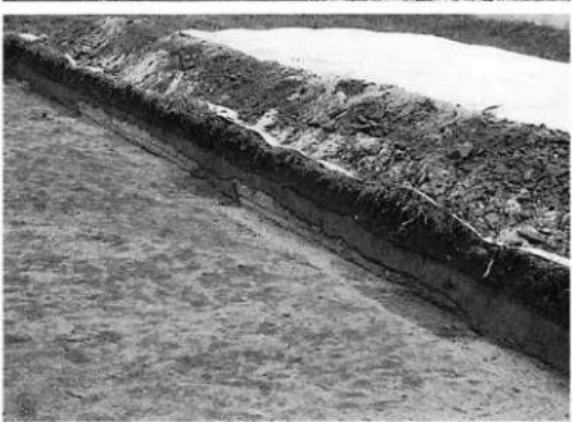
(南西から)



c 907T

東壁土層断面

(南西から)



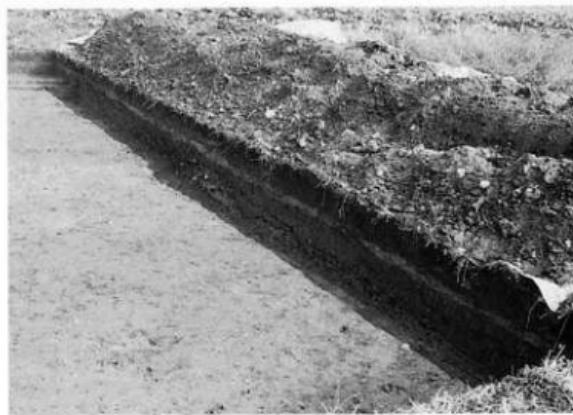
a 調査区近景
府川町地区
(北西から)



b 908T
東壁土層断面
(北西から)



c 909T
東壁土層断面
(南西から)



図版5

a 910aT

調査状況

(南から)



b 910aT

P 1 検出状況

(北から)



c 910aT

P 1 遺物出土状況

(西から)



a 910aT

P 2 遺物出土状況
(東から)



b 910aT

S K901土層断面
(北から)



c 910aT

S D902検出状況
(東から)



図版 7

a 910bT

調査状況

(南から)



b 910bT

第3層遺物出土状況

(東から)



c 911T

東壁土層断面

(南西から)



a 調査区近景
目崎町地区
(西から)

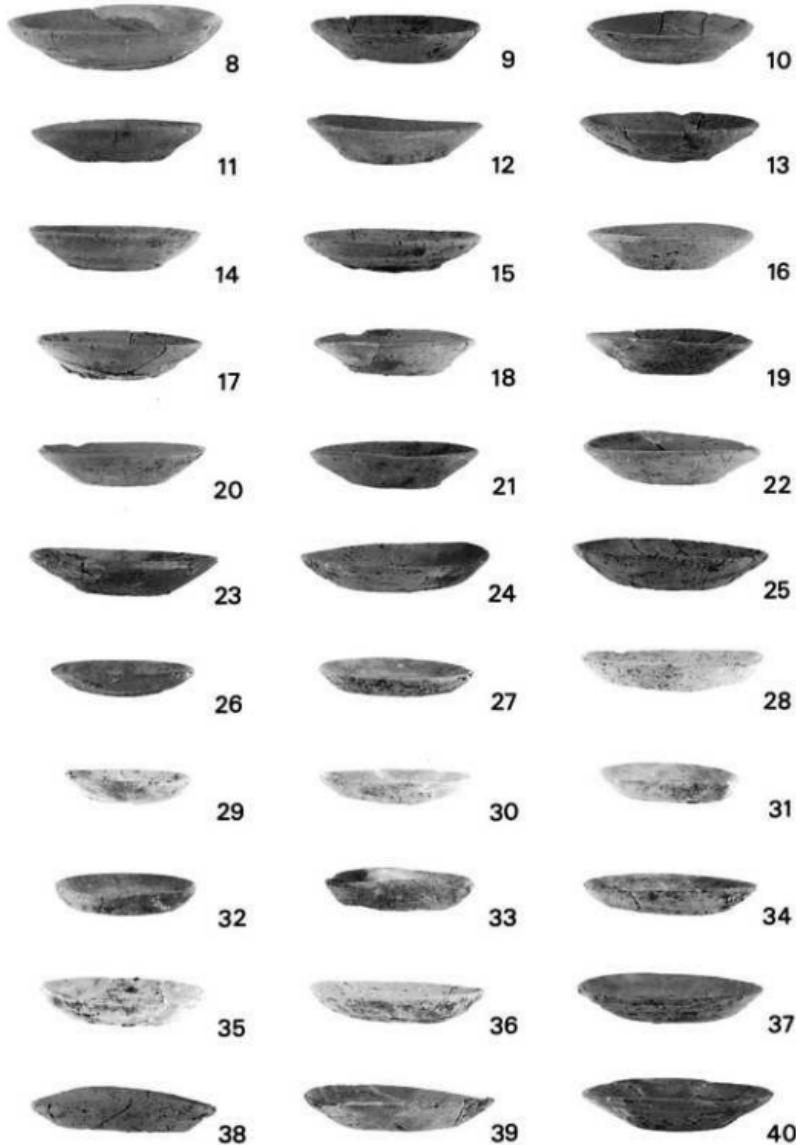


b 912T
西壁土層断面
(東から)



c 作業風景

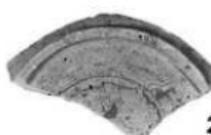




出土遺物(1)



1



2



3



5



6



7



41



42



43

出 土 遺 物 (2)



芦
品
市
町





付図 第1～9次調査区位置図(1:10,000)
 (1, 2, 3……: 調査年次, ▲: 県・市教育委員会試掘調査地点, ●: 総社, ●: 古瓦出土地)

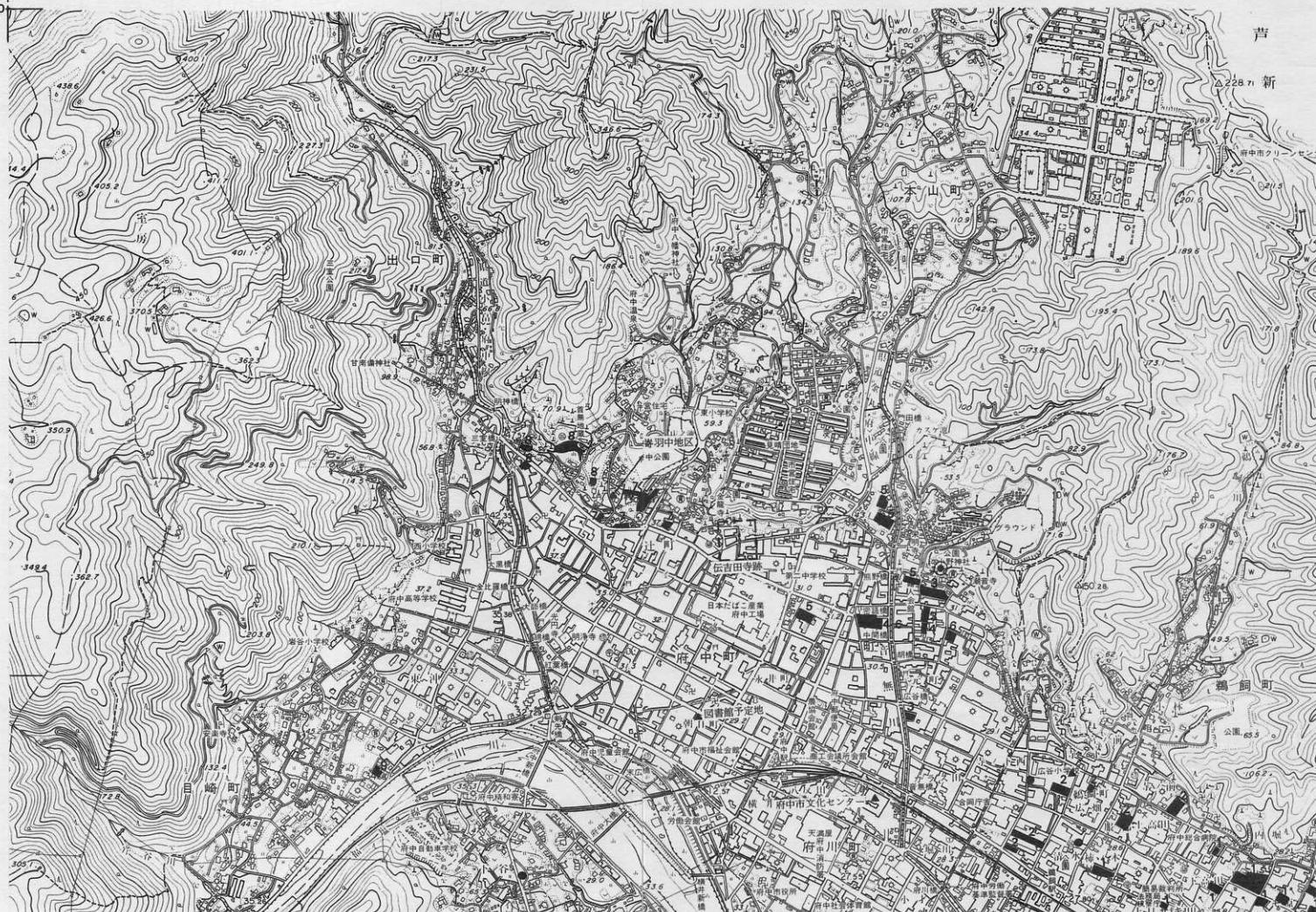
1610
+4



付図 第1~9次調査区位置図(1:10,000)
 (1, 2, 3……:調査年次, ▲:県・市教育委員会試掘調査地点, ●:総社, ●:古瓦出土地)

96.2

-156-



広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第95集

備後国府跡

—推定地にかかる第9次調査概報—

1991

平成3(1991)年3月発行

編集発行 財團法人 広島県埋蔵文化財調査センター

広島市西区観音新町4-8-49

電話 (082) 295-5751

印刷 産興株式会社